

スイスでは、今何を造っているか。

必要とされるインフラは時代によって変化する

これからのインフラ投資の重点を

1. 省エネルギー
2. 食料の生産と水と空気の確保
3. 防災

に置くべきだと思う。

幸いなことに、

日本は社会の成熟度やインフラ整備において世界の最先端を進んでいるわけではない。

ヨーロッパを観察していれば、これからのインフラ整備のあるべき姿が見えてくる。



ヨーロッパでは今、何を造っているのか？



スイスと日本の国土条件



共通点

- ・天然資源が皆無
- ・山地が多い：→スイス7割/日本6割
 - ・水資源および水力エネルギーは比較的豊富
 - ・食料を完全自給できず

相違点

- ・内陸国/島国

スイスのインフラ投資のキーワード

エネルギー + 土地

不足しているものの節約または高度利用を図るためのインフラ投資



先天的な欠陥を補うためのインフラ投資が今後の持続的な成長に有利に作用

まとめ：わが国のこれからのインフラ投資を考える

- ・エネルギー
- ・食料、水、空気
- ・防災

現在「無駄」「不要」「赤字」と見なされているプロジェクトのかなりのものは今後必要とされてくるのではないかな？

- ・鉄道【特に都市内鉄道と貨物鉄道】
- ・ダム→水資源の確保【降雪が少なくなれば尚更】
- ・干拓→食料の生産【米の減反など以外の外】
- ・林業【酸素の供給と治山治水のために】

土木工学の再定義：

自然の恵みを人間の生存に永続的に活かすための施設の建設と維持

永続的に：環境に配慮することの意義

- ・人類の生存が危ぶまれている現在こそ土木が必要とされている。
- ・人類の生存のための問題解決に必要なのは不確実なハイテクではなく確実なローテクの組み合わせである。→すなわち、土木

コンクリート技術にはどのような貢献ができるのか、考える時期に来ている。